

第2学年A組 道徳学習指導案

平成30年10月26日

指導者 浜田 容子

1 主題名 「差別をなくし、等しく生きる」

(資料名「卒業文集最後の二行」 出典：『私たちの道徳 中学校』文部科学省)

2 ねらい いじめの愚かさを知り、いじめの問題解決に必要な道徳的判断力を養う。

3 主題設定の理由

- 本主題は、内容項目C-11「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」をねらいとしている。公正、公平さを重んじるとは、私心にとらわれて事実をゆがめたり、偏ったものの見方や考え方をしたりするのではなく、正しいと信じることを自ら積極的に実践することである。好き嫌いから他者に偏見をもつのではなく、自分と同様に他者も尊重し、誰に対しても分け隔てなく接し続けようとするのが大切である。

しかし人間は、自分と異なる考え方や感じ方、多数ではない立場や意見に対して偏った見方や考え方をしてしまう弱さをもっている。いじめも、このような人間的な弱さが起因している場合が少なくない。思春期にある2年生のこの時期に、人間的な弱さを克服して、自らが正義を愛する心を育むようにすることが必要である。その上で、他者に対する思いやりの心や、生命のかけがえのなさへの自覚などを基盤として、自他の不公正さを断固として許さない姿勢をもち、集団社会の一員として力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうと努力をすることが大切であると考えます。

- 本学級の生徒8名は、明るく素直で、自分のやるべきことにはきちんと取り組むことができる。集団生活においても、基本的には真面目に協力して前向きに取り組もうと頑張る雰囲気がある。いじめや差別に対しては、「絶対にやってはいけないものだ」という認識は強くある一方で、深く考えず行動したり、自分が正しいと思う意見を言えず、周りに流されてしまう場面もある。道徳の授業では、じっくり考え、自分の意見を文章に表してから発言する生徒がほとんどである。また、級友の意見を聞いて、自分の考えと比較するなど考えを深めることができる生徒もいるが、自分の実際の生活に置き換えて考えたり、行動したりするまでには至っていない。生徒はそれぞれ、「自分の気持ちや考えを知ってほしい」と願っているが、うまく表現できない生徒がいるのも実態である。
- そこで本時は、私たちの道徳「卒業文集最後の二行」を活用し、いじめをなくし公正、公平に判断することの大切さについて考えを深めたい。指導に当たっては、まず「いじめ」とは何かについて問いかけ、その後「今日の心」を提示することで、本時のねらいへの方向付けを行ってから本資料へと入る。展開前段では、まず、T子と主人公「私」の人間関係を整理し、いじめを後悔しながらもいじめを続ける主人公の心情や状況を把握することで、人間には誰でも心の弱さがあることを共感的に理解させる。その上で、展開後段では主人公の取るべき言動について考えさせる。それらの考えをクラスで議論する中で、自分にはないさまざまな見方や考え方に触れさせ、道徳的価値の深まりをねらう。終末では、資料の最後の2行を再度読んで、授業の感想を書かせ、共有することでねらいとする価値へと迫りたい。


4 発問の組み立て

本時の学習の中での発問を次のように構成した。まずはT子の立場を中心に登場人物の人間関係を確認したうえで（共感的発問）、主人公がいじめていた時の心情について分析的に考えさせる（分析的な発問）。そして後悔している主人公が、とるべき言動について投影的に議論させる（投影的な発問）。こうした多面的・多角的な生徒の考え方になるような発問構成により、活発に議論する学習の展開が期待できると考える。

5 学習指導過程

	学習内容及び活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
導入 5分	1 今日の心を知る。 2 いじめの新聞記事を見る。	今日の心 「いじめ」について考えよう。 ○ 「いじめ」とはどういうことだろう。 ・ 嫌がることを言う。 ・ 仲間はずしをする。 ・ 暴力をふるう。	
展開 前段 15分	3 資料「卒業文集最後の二行」を読んで考える。 (1) それぞれの人間関係について整理する。 (2) 主人公の心情を考える。	○ 登場人物の状況を整理しましょう。 T子 身なりなどを理由にいじめられた。 私 T子となりの席になったことをきっかけに、先頭に立ってT子はいじめた。 周りの生徒 私と一緒にあって、Tに嫌がらせをした。 ○ 主人公が、T子さんに対する言動を後悔しつつも、Tさんに謝らず、いじめ続けたのはなぜだろう。 ・ 周りの友達の手前、今更やめることができなかったから。 ・ かばったら自分もいじめられそうだから。 ・ 謝ることが恥ずかしいから。 ・ 他の人に合わせているから。 ・ 強がっていたから。	○ いじめられているT子の苦しみを全員に感じ取らせる。 ○ 「T子に対して謝りたい」「やってはいけない」とわかっているがやめられない」という主人公の気持ちを確認し、主人公の言動は誰にでも起こり得ることに気づかせる。
展開 後段 20分	(3) 主人公はどのように行動すべきだったかを考える。 ・ 個人 ・ グループ ・ 全体 ・ お互いの意見の理由も話し合う。	◎ 「主人公の取るべき言動にはどのようなものがあつただろうか。」 ・ カンニングのことでからかわれたとき、自分は加わらない。 ・ カンニングのことでからかわれた後に、周りの友だちにはわからないようにT子に謝る。 ・ 卒業式の夜、電話をかけて謝る。 ・ いじめるのをやめて、友達をとめる。 ・ 大人になって会った時に謝る。	○ 取るべき言動の時間や場所、台詞など具体的に考えさせる。 ○ 個人でワークシートに書かせて考えをまとめさせた後、グループで意見交換をさせる。 ○ 考えた言動が本人や周りにどのような影響を与えるかも考えさせる。
終末 10分	4 資料の最後の2行をもう一度読んで、授業の感想を書く。	○ 今日の授業で考えたことを書きましょう。	○ 今日の授業で考えたことをじっくりと振り返る時間を確保する。


6 板書計画



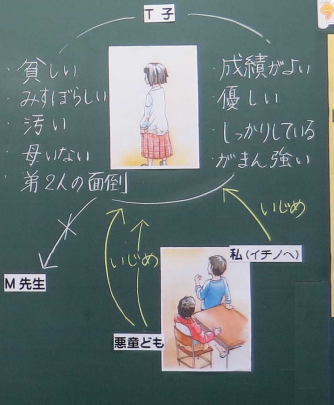
今日の心
今日の授業の振り返り
今日の心
今日の授業の振り返り
今日の心
今日の授業の振り返り

主人公の取るべき言動にはどのようなものがあるだろうか。

とるべき言動	理 由
・カンニングでからかう中に入らない。	・自分にうしろめたさがあるから、いじめる自分を止められる。
・カンニングでからかう友達をとめる。	・自分が止められ、やらないで、T子さんのからかいはやむかも。
・カンニングでからかわれた後、みんなのいない所で謝る。	・悪いのは自分だから本当のことと言わなければならない。
・卒業式の夜に、謝りに行く。	・涙がとまらないほど後悔しているのだから、謝りに行くべき。
・大人にふた、会った時に謝る。	・大人にふた、今なら行動できるのではないか、T子さんも喜ぶかも。



後悔しながらも続けよう
自分から
自分から
自分から
自分から
自分から
自分から



「いじめ」について考えよう。

卒業文集最後の二行

7 他の教育活動との関連

- 生徒会活動

8 評価

- いじめをなくし、公正、公平に判断することの大切さについて考えを深めることができたか。

「卒業文集最後の二行」

2年 名前 ()

今日の心

言動（具体的に） どこで？ どのように？ どんな言葉で？ 態度で？	理 由

授業を振り返って考えたことを書こう。（学んだこと、これまでの自分、これからの自分）

今日の授業を終えて

◎ ○ △ □

- ① 「今日の心」に対して、自分の考えをもつことができましたか。
- ② 筆者の気持ちに共感できましたか。
- ③ 自分に生かしていこうと思いましたが。

主題名	差別をなくし、等しく生きる	内容項目	C—1 1 相互理解、寛容
資料名	卒業文集最後の二行	出典	私たちの道徳
今日の心	「いじめ」について考えよう。		
場面	私【○】やT子【・】の気持ち	価値と関連	◎中心発問 ○主発問・補助発問
① 小学校時代、生意気で口の悪い私は、同級生のT子をけなした。T子は涙もみせず、担任にも言わなかった。	○ 面白がっていた。 ○ 軽い気持ちでからかった。 ○ T子の気持ちを考えず、調子に乗っていた。 ○ 服装や家庭環境、成績などから自分の方が上だと思っていた。 ・ つらくて苦しい。 ・ どうしてこんなにいじめるのだろう。 ・ 誰か助けてほしい。 ・ 絶対に泣いたりしない。負けない。	公正・公平 おもいやり 共感的な発問	○ 登場人物の状況を整理しましょう。
② 漢字の小テストで、私はT子の答えをカンニングして満点をとった。T子は「さすがイチノへさんね」と心から言ってくれた。	○ うしろめたさを少し感じたが、満足だった。 ○ 本当のことを言う勇氣はない。 ○ いつもからかっている自分を褒めるT子の気持ちがわからない。 ・ イチノへさんは本当にすごいわ。		
③ T子はカンニングしたと中傷され、そのうち私も同じような発言をしてしまった。T子は初めて泣き叫び、その場から逃げ出した。	○ いつも通りでないと、へんだと思われる。 ○ 内心悪いと思っていながら、友だちにつられて言ってしまった。 ○ 彼女のあとを追いかけて、土下座して謝りたかったが、その度胸も勇氣も瞬時に吹っ飛んだ。 ・ どこまでこの人たちは私をいじめるのだろう。 ・ もう、がまんできない。 ・ 私は心まで汚い人間ではない。 ・ どこまでいじめれば気が済むのだろう。	公正・公平 克己と強い意志 分析的な発問	○ わたしが、T子さんに対する言動を後悔しつつも、T子さんに謝らず、いじめ続けたのはなぜだろう。
④ 卒業式を迎えて、私はT子に謝らずじまいで終わったが、卒業文集のT子の最後の二行に泣いた。	○ こんなにつらい思いをしていることに気が付かなかった。 ○ ごめんなさい。謝りたい。 ○ なんというひどいことをしてしまったのか。 ○ 後悔してもしきれない。 ・ 一人でもいいから、私のことを理解してくれるお友達が欲しい。 ・ きれいな服さえあれば、私はこれほどまでにいじめられることはなかったのではないか。	公正・公平 集団生活の充実 投影的な発問	○ 「私の取るべき行動」にはどのようなものがあったのだろうか。 ・ 本当にそんなことができるだろうか。 ・ どうして私はそれができなかったのだろうか。